

平成30年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- | | |
|-----|------------------------------------|
| I | スポーツ及びオリンピック・パラリンピックの意義や歴史に関する学び |
| II | マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成 |
| III | スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築 |
| IV | 日本の伝統・郷土の文化や世界の文化の理解・多様性を尊重する態度の育成 |
| V | スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成 |

道府県・政令市名【 広島県 】

1 実践テーマ	【Ⅱ・Ⅲ・Ⅴ】
2 実施対象者	福山市立加茂中学校 全校生徒（1年75名・2年108名・3年103名・合計286名） 保護者10名
3 展開の形式	（1）学校における活動 ① 教科名（保健体育科） ② 行事名（講演会）
4 目 標 （ねらい）	～パラリンピアン(芦田 創選手)がやってくる～ ○パラリンピアン芦田創選手の歩んできた道のりや競技にかける熱い思いを語ってもらう中で、夢と希望の実現のため、何事も諦めずに努力を続けることの大切さを知る。 ○パラリンピアンと一緒に速く走るコツを学ぶ中で、スポーツの魅力や楽しさを実感する。 ○パラリンピアンを迎えるための「おもてなしの心」を考える。
5 取組内容	（1）事前の取組 ○学校便り・学年便りで「パラリンピアン(芦田 創選手)がやってくる」ことを生徒や保護者に知らせた。 ○芦田選手をお迎えするにあたり、どのような準備ができるか創作部が中心となって考え、掲示物等を作成した。 ① 金メダルをプレゼントしよう。 ② 芦田選手の絵を描こう。   ③ パラリンピックについて調べよう。  

(2) 当日

2校時・・講演「より遠くへ」(資料②③)

全校で芦田創さんのお話を体育館で聞く。



3校時・・「アスリート実践指導」

3年生のみ陸上競技の指導を受ける。



(3) 事後

- ・オリンピック・パラリンピック教育に関するアンケートに答える。
- ・学校便りや学年便り・学級通信などで当日の内容や生徒の感想を知らせる。(資料④⑤)
- ・保健体育の体育理論で、今回学んだことを発展させた授業にしていく。

6 主な成果	事後のアンケート結果					
	設問／回答		全校			
			非常に そう思う	やや そう思う	あまりそう 思わない	全くそう 思わない
	1	2020 年東京オリンピック・パラリンピック 競技大会に対する理解・関心が高まりました か	62.2	35.2	2.6	0.0
	2	オリンピック・パラリンピック並びにスポー ツの意義や価値等に対する理解・関心が高ま りましたか	57.8	38.8	3.4	0.0
	4	障害者を含めた多くの市民とともに生涯にわ たってスポーツに対して自ら進んで参加した いと思えましたか	30.3	55.3	14.0	0.4
5	スポーツを通して、自分で考えて行動する力 を身につけたり、仲間との人間関係を構築し たりすることができると思いますか	61.4	35.2	3.4	0.0	
・結果からもわかるように、「2020 年東京オリンピック・パラリンピック競技大会に 対する理解・関心が高まりましたか」の肯定的な回答97. 4%、「オリンピック・パ ラリンピック並びにスポーツの意義や価値等に対する理解・関心が高まりましたか」 の肯定的な回答96. 6%と競技大会やスポーツの意義や価値に対する理解・関心が 高まった。また、「スポーツを通して、自分で考えて行動する力を身につけたり、仲間 との人間関係を構築したりすることができると思いますか」の肯定的な回答も96. 6%となり、スポーツの価値に対する理解も高まっている。 ・芦田選手の講演を聞く中で、生き方・考え方に共感したり、感動したり、自分の生 活や生き方を振り返ったりした生徒の感想が多くあった。 ・この授業のあとに行った「駅伝・マラソン大会」において、あきらめず頑張る ことや友達を応援することの大切さを意識した大会となり、芦田選手との出会 いが生徒の心に残るものになったと実感できた。 ・芦田選手からの感謝の言葉を受け、「おもてなしの心」として金メダルなどを 作成した生徒は満足感や達成感を味わうことができた。						
7実践において 工夫した点 (事業の特色)	・事前に学校通信や学年通信に載せることで、当日の内容についての興味・関心 が高まった。 ・「芦田選手へのおもてなしの心」を創作部の生徒を中心に考えさせることで、 生徒の主体的な動きとしていった。					
8主な課題等	・時間の制約で3 学年しか実技指導ができなかった。全学年が芦田選手の授業 を受けたかったという意見が出た。					
9来年度以降の 実施予定	・来年度もぜひこのような取り組みを継続していきたい。来年度は、パラリンピ ックの競技を実際に行うことで、更なる興味・関心を高め、スポーツの価値を高 めていきたい。					